

主 題：神に会う備えをする

聖書箇所：ペテロの手紙第一 4章8－9節

4章の1節からペテロは、私たちクリスチャンは何のために生きているのか、何のために救われ、生かされているのかを覚えて今日を生きなさいと教えてくれました。クリスチャンの生きている目的、それは「神のみこころに従うこと」です。そこに神の祝福があるのだとペテロは言います。神はそれを私たちに望んでおられ、また命じているのです。7節から、その具体的な生き方、特に教会の中にあつてどのように歩いて行くのかをペテロは教えて行きます。

☆終わりの日に相応しいキリスト者の生き方

1. 神との正しい交わりを保つこと 7節
2. 人との正しい交わりを保つこと 8－11節

○愛において 8－9節

○働きにおいて 10－11節

前回は「神との正しい交わり」について学びました。続いて学んで行きましょう。

2. 人との正しい交わりを保つこと 8－11節

○愛において

1) 愛し合う

8節「何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」

ペテロが「何よりもまず」といったのは、このことが最も大切であるからです。ペテロは愛し合うことに関して三つのことを教えます。

☆愛し合うことの大切さ

(1) 愛し合うことは神のみこころ 8a節

教会において兄弟姉妹が心から愛し合うことは、神のみこころです。ヨハネ13：34を見ましょう。「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」互いに愛し合うことは「新しい戒め」だと言います。I コリント13章は愛の章といわれている箇所ですが、そこでパウロは、「愛がないなら、何の値打ちもありません。…何の役にも立ちません。」と1－3節で三度も繰り返しています。どんなに素晴らしいわざ、働きであっても、愛がなければむなしいと言ひ、最後に13節「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」と締めくくっています。パウロがこのように教えるのは、愛こそ神のご性質だからです。テサロニケのクリスチャンたちがどのようであったか、彼らは神に喜ばれる生活を送っていました。

I テサロニケ4：1「終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあつて、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩いて神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩いてください。」と、パウロはその生き方を賞賛し、ますますそのように歩むようにと励ますのです。また、パウロは彼らが実践していた兄弟愛を喜んでいます。9節「兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。」

(2) 愛の実践：どのように愛し合うのか

「熱心に」とあります。これは「伸ばす、張り切る、一生懸命」という意味です。ある神学者はこのように表現しています。「全速力で走る馬を表現し、運動選手のように力いっぱい働いて活動しているピンと張りつめた筋肉」と。また、バークレーは「この語には『永続的かつ一貫した』と『全速力で走る』という二つの意味がある」と言っています。すなわち、尽きることなく愛し続けることです。気まぐれで感傷的、また、安易な愛ではなく、全力で走る時は精神も肉体も集中し、すべてををかけて走るように、すべてををかけて全力で愛するという意味です。

しかも、ここで使われている「愛」は「神の愛」＝アガペーであることを教えています。犠牲的愛です。私たちの感情が、また理性が同意しなくても、そうしたくないと叫んでも、そのようなことに関係なく、徹底的に愛する愛です。どんなに侮辱されようとも愛する愛です。詳訳聖書ではこの箇所を「互いに熱い尽きることのない愛を保ちなさい」と訳しています。自ら最大限の努力を払って愛しなさいと言うのです。

### (3) 愛し合う理由：なぜ愛し合うのか

このような愛をキリスト者の中で保つ理由は何でしょう？

このような愛は、兄弟姉妹の間において罪を赦し合うという、世からは考えられない結果をもたらします。8節の後半に「多くの罪をおおうからです。」とあります。この最初のところに「なぜなら」という接続詞が省略されています。これは「おおいをする、隠す」という意味で、罪の赦しのことです。自分に対する人の罪を赦すこと、自分の罪が赦されているから他の人の罪も赦すことができるのです。また、人の罪を言いふらさないことです。その行為を行なうのは心に怒りがあるからです。やられたことをやり返さないと気がすまない、だから、巧妙に自分は霊的であり、相手を攻撃しているのではないように見せかけて悪口を言ったり、中傷するのです。それは、愛ではなく、怒りがもたらす復讐の行為です。箴言10：12に「憎しみは争いを引き起こし、愛はすべてのそむきの罪をおおう。」とある通りです。私たちは神の愛によって人を愛してゆくことができます。神の愛で人を愛するとき、人の為す罪を赦すことが容易です。マタイ18：21に、ペテロが「兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」とイエスに尋ねている個所があります。これはこの当時のユダヤ教師たちが、三度まで赦すようにと教えているのを知っていたからです。ペテロはそれ以上の七度なら当然赦されると思っていたのででしょう。しかしイエスのお答えは、22節「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」と答えられたのです。赦し続けなさいということです。そして、このようなたとえを話されました。23-35節「このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。24 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに来て来られた。25 しかし、彼は返済することができなかつたので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。26 それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。』と言った。27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。28 ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ。』と言った。29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから。』と言って頼んだ。30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』34 こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。35 あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。』。1万タラントの借金を赦してもらっていないながら、100デナリの借金を赦してあげられなかつたのです。

1万タラントの借金：この当時、イドマヤ、ユダヤ、サマリヤ、ガリラヤからローマが集めた1年間の税の総収入は900タラントでした。その約11年分です。

100デナリの借金：約3ヶ月分の給料です。

このように、借金が赦されていないながら人を赦すことができないキリスト者、神はそのような人に対して懲らしめを与えられます。だから、人を赦せない者の心には喜びがありません。そして、神の祝福がないのです。

罪が赦された私たちキリスト者は「赦し合う者」と変えられました。それは、赦される価値のない自分が、赦されたことを知っているからです。1万タラントの借りのある者はあなた自身であるとイエスは教えるのです。私たちが赦し合うとき、神の栄光を現わすことができ、すばらしい伝道の機会となるのです。

ヨハネ13：35に「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」とあるように、赦し合ってゆくことができるのは、私たちのうちに神の愛があるからです。赦し合い、励まし合い、いたわり合って、罪を犯したときはその罪を責め戒めるのです。そして、悔い改めたなら心から赦し受け入れることです。

#### (1) 神の愛：神がもっておられる愛

I ヨハネ3：1「私たちが神の子どもと呼ばれるために、一事実、いま私たちは神の子どもです。一御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。」と、「どんなにすばらしい愛」とは人間が考えつくことも、思いつくことも、実践することもありえなかつたものです（I コリント2：9「まさしく、聖書に書いてあるとおりのこと。」「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」「。また、I ヨハネ3：1

6には「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」とあります。神に逆らう私たちのために、神はいのちを捨ててまでもその罪から救い出そうとしてくださった、それが十字架です。神の犠牲の愛なのです。I ヨハネ4：9－10にもこのような書かれています。「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

(2) 神から与えられた愛：神がまず私たちを愛してくださったから

I ヨハネ4：7「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」、「愛は神から出ているのです」、これは、私たちが生まれながらに持っている「愛」で神を、また兄弟姉妹を愛するようには教えていません。それは不可能なことだからです。そこで、神はご自身の愛を、信じ救われたすべての人に与えてくださった、その愛でもって神を、そして兄弟姉妹をやっと愛せる者と神がしてくださったのです。

II コリント5：14「というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。」、「取り囲んでいる」とは「支配するとか、強制する」という意味です。神からの愛によって私たちの行動は支配され、導かれているのだとパウロは教えます。だから、このような神の愛がなく、好きだ嫌いだとかによってしか神を、また人を愛せない人は、その救いに問題があります。ヨハネのことばを借りるならその人は「偽り者」(4：20)なのです。救われているは言うてはいるが実はそうではない人です。

このような人々が教会にあるとき問題が起こります。赦し合うこと、愛し合うことが神の栄光を現わすゆえに、それを乱す者への警告があるのです。テトス3：10－11を見ましょう。「分派を起す者は、一、二度戒めてから、除名しなさい。11 このような人は、あなたも知っているとおりに、墮落しており、自分で悪いと知りながら罪を犯しているのです。」、「分派」とは「選ぶ」という意味で、悪い意味ではありません。しかし、後にこのことばは神のことばである聖書のことばよりも、自分のわがままな意見や考えを重んじて選ぶことを意味するようになるのです。自分自身の考えと異なる考えには耳を傾けることを拒むのです。この人にとって、自分の考えがすべての真理の基準、律法であり、霊的真理も一致も関係ないのです。従って、みことばにも霊的リーダーにも従わないのです。このような人により、教会の証が壊されます。神の栄光が現わされません。ゆえに、二度その間違いを戒めたうえで、それでも悔い改めなければ除名しなさいと教えるのです。ローマ16：17－20も見てください。

「兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまづきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。18 そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましています。19 あなたがたの従順はすべての人に知られているので、私はあなたがたのことを喜んでみます。しかし、私は、あなたがたが善にはさとく、悪にはうとくあってほしい、と望んでいます。20 平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます。どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。」

2) 愛の実践がもたらすもの：

愛し合う時、それは形となって表われます。

(1) もてなし：これは「親しい」と「旅人」が一つになったことばです。旅人を客としてもてなすように、それは神の愛を実践する機会となるからとペテロは勧めるのです。当時、キリストの福音を宣べ伝える者たちが宿泊するとき、町の宿は料金が高く、また不潔であるだけでなく、不道德、飲酒の問題があり、キリスト者が誘惑を避けるためには、兄弟姉妹の家が最適の場所でした。また、教会がこの地上に誕生してからの最初の約200年は、教会の建物は存在せず、キリスト者の家に集まっていました。そこで、家庭を開放してくれる人が必要だったのです。このような時代にあって、このように家庭を開放し、人々をもてなす人たちがいなければ、彼らの働きはどうなっていたことでしょうか？これはすばらしい働きなのです。ヘブル13：2に「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。」とあります。人々は知らずに天使をもてなしたのです。これは大切な、そして、大きな祝福のある働きなのです。しかし、「もてなす」ことにはいろいろな犠牲が伴います。また、煩わしいこともあります。ペテロはその働きをつぶやかない、不平を言わずに、喜んで行なうようにと勧めるのです。正しい心の態度をもって為さないとその人にとって祝福となるはずのことが祝福とならないのです。

パウロは、長老の資格としてこのように教えています。I テモテ3：2「ですから、監督はこういう

人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、」、また、テトス1：8にも「かえって、旅人をよくもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、敬虔で、自制心があり、」と教えています。

まず、神が私たちに愛を示してくださったから、そのことをしっかり覚えましょう！